

公益財団法人 J R 西日本あんしん社会財団  
平成 27 年度 事業報告  
(平成 27 年 4 月 1 日から平成 28 年 3 月 31 日まで)

I 事業概要

平成 27 年度事業計画に基づき、地域連携をより強く意識しながら、安全で安心できる社会の実現に資する事業を多面的に推進してきた。

1. 心身のケアに関わる事業

(1) グリーフケアに関わる人材養成講座への助成（上智大学グリーフケア研究所の寄付講座）

誰もが安心して悲嘆等に伴うこころのケアを受けられる社会を目指し、グリーフケアに関する専門知識・技能を持って実践に携わる人材や地域社会においてグリーフケアを提供する市民ボランティアを養成している上智大学グリーフケア研究所の人材養成講座に対し、寄付助成を行っている。

2 年制課程の「グリーフケア認定課程・基礎コース」に 12 名、「同・臨床コース」に 10 名が新たに入学し、また、平成 26 年 4 月に入学した受講生のうち、基礎コース 13 名、臨床コース 16 名が平成 28 年 3 月に修了した。

(2) 心身のケアに関する啓発活動

①連続講座『「いのち」を考える』の開催

死と悲嘆、グリーフケアをはじめ、多種多様な観点から「いのち」に焦点をあて、ともに考える連続講座を開催した。

・第 8 回連続講座 開催概要（会場：毎日新聞オーバルホール、時間：18:30～20:00）

参加者数：延べ約 2,500 名

日付	講師	
5/15 (金)	松野 明美	元オリンピックランナー、タレント、熊本市議会議員
5/22 (金)	小澤 竹俊	医師、在宅ホスピス専門医
5/29 (金)	山下 京子	「彩花へ 生きる力をありがとう」著者
6/ 5 (金)	小寺 洋一	臨床心理士、スクールカウンセラー
6/12 (金)	家田 莊子	作家、高野山真言宗僧侶
6/19 (金)	岩崎 順子	いのちの講演家

・第 9 回連続講座 開催概要（会場：毎日新聞オーバルホール、時間：18:30～20:00）

参加者数：延べ約 2,600 名

日付	講師	
10/ 6(火)	高木 慶子	上智大学グリーフケア研究所特任所長
10/13(火)	水谷 修	花園大学客員教授、上智大学非常勤講師
10/20(火)	森 清頭	清水寺執事補、立正大学日蓮教学研究センター研究員
10/27(火)	堀 早苗	あしや音楽療法研究会主宰
	堀 彩	あしや音楽療法研究会特別研究員
11/10(火)	五百旗頭真	公益財団法人「ひょうご震災記念 21 世紀研究機構」理事長
11/17(火)	細川佳代子	NPO 法人勇気の翼インクルージョン 2015 理事長

・第10回連続講座 開催概要（会場：毎日新聞オーバルホール、時間：18:30～20:00）

参加者数：延べ約2,900名

日付	講師	
1/29(金)	白山 宏人	医療法人拓海会大阪北ホームケアクリニック院長
2/ 5(金)	大河内大博	浄土宗願生寺副住職
2/12(金)	坂口 幸弘	関西学院大学人間福祉学部人間科学科教授
2/19(金)	清水 新二	奈良女子大学名誉教授、放送大学客員教授
2/26(金)	坂下 裕子	こども遺族の会「小さないのち」代表
3/ 4(金)	柳田 邦男	ノンフィクション作家、評論家

## ② 「いのちのセミナー」の開催

「いのち」をテーマとした講演を通して、自らを見つめ考える機会を広く提供できる場として開催した。

<開催概要>

日時：平成27年11月23日（月・祝） 13時30分～15時10分
場所：松下IMPホール
内容：「いのち輝かせて～よく生き よく笑い よき死と出会う～」 上智大学 名誉教授 アルフォンス・デーケン
参加者：約720名（応募者：1,414名）

## 2. 地域社会の安全構築に関わる事業

### (1) 「安全セミナー」の開催

東日本大震災以降、あらためて災害に対する備えと対応の重要性が社会的に認識されたことに加えて、昨今多発する自然災害や異常気象を受け、ますます関心が高まっている「防災」をテーマに、地域社会における仕組みづくり等に焦点をあてた安全の啓発活動として開催した。

<開催概要>

日時：平成27年8月27日（木） 13時30分～16時30分
場所：神戸新聞松方ホール
内容：○「命を守る災害情報～巨大災害に立ち向かうために～」 関西大学社会安全学部 准教授 近藤 誠司
○「住民自らでつくる安心社会」 公益社団法人中越防災安全推進機構 震災アーカイブス・メモリアルセンター長 稲垣 文彦
参加者：約540名（応募者：778名）

### (2) 救急フェア、駅で体験AEDの開催

駅ご利用者をはじめ地域住民の方々に手軽にAEDの使用や心肺蘇生法、駅ホームや踏切の非常ボタンなどを実体験していただくことで、広く市民による初期対応や初期救護（ファーストエイド）の重要性を啓発し、市民の自助、共助意識を涵養するため、JR西日本や消防、NPO、地元自治会等と連携・協力し「救急フェア」等を開催している。また、毎月9日にAEDの取り扱い方法の体験に特化した「救9の日 駅で体験AED」を実施した。

	開催回数	参加者数	うちAED等体験者数
救急フェア	12回	約3,200名	約1,800名
救9の日 駅で体験AED	11回	約1,100名	約1,800名
非常ボタンキャンペーンでの AED体験	18回		約1,200名
計	31回	約4,300名	約1,800名

(3) AED訓練器等の提供による初期救護の普及啓発

前年度より、応急手当など常日頃の防災・減災に向けた対策の支援活動として、公募によりAED訓練器等を提供することで、救命処置の普及啓発の深度化を図る取り組みを行った。

	学校	その他	計
応募件数(セット)	3(23)	10(20)	13(43)
提供件数(セット)	3(9)	5(10)	8(19)

3. 「安全で安心できる社会」の実現に関わる事業

(1) あしなが育英会への助成

事故や災害、病気等様々な理由で親をなくした子どもたちへの心のケア活動の一環として取り組んでいるあしなが育英会主催の「高校奨学生のつどい」及び小・中学生を対象とした「キャンプのつどい」に対し、寄付助成を行っている。平成27年度は、関西北陸地区における「高校奨学生のつどい」が8月12日から15日まで、総勢321名の高校奨学生及びリーダー役・運営スタッフの先輩奨学生たちが参加し開催された。また、小・中学生を対象とした「キャンプのつどい」が8月21日から23日まで、総勢62名の子どもたち及び学生ボランティアが参加し開催された。

(2) 関西いのちの電話及び神戸いのちの電話への助成

福知山線の沿線地域で市民からの電話相談事業に取り組んでいる関西いのちの電話及び神戸いのちの電話における電話相談員のスキルアップやメンタルケアに関する活動に対し、寄付助成を行っている。平成27年度は、関西いのちの電話ではいじめに遭い自殺未遂を体験した落語家の講演、神戸いのちの電話では専門家による実践的な知識、スキルの向上に向けた教育、研修や相談員に対するメンタルケアが行われた。

(3) 地域における各種活動等に対する支援協力

当財団では上記のほか、財団の設立趣旨に合致し公益性や社会的必要性が高いと認められる活動に対し協賛を行っている。

- ① 京阪神に拠点のある遺族会が個々の遺族会のレベルアップを目指して実施する勉強会を盛り込んだ交流会の開催に対し、協賛を行った。
- ② 減らせ突然死実行委員会による、学校教育を基盤に全ての国民が心肺蘇生教育を受けることのできる環境整備を目的とした、小学校安全教育副読本の作製に対し協賛を行った。(181校に配付)

#### 4. 公募助成事業

##### (1) 「平成 28 年度公募助成（活動及び研究）」の実施（募集、審査、決定）

当財団では、設立初年度より、事故・災害に対する備えやその後のケアに関連する活動・研究を対象とした公募助成を実施している。

平成 27 年度は、平成 28 年度に行われる活動や研究を対象とした助成事業の公募を実施した。応募件数 142 件について審査した結果、65 件、5,261 万円の助成を行った。採択率については、前年を上回る 46%となった。

平成 28 年 3 月には、助成対象団体や研究者を対象に贈呈式を開催するとともに、助成先相互のネットワークづくりを目的に交流会を実施した。

	応募件数	助成件数	金額
活動助成	72 件	38 件	2,311 万円
活動助成（特別枠）	30 件	13 件	886 万円
研究助成	40 件	14 件	2,064 万円
計	142 件	65 件	5,261 万円

##### (2) 第 5 回公募助成活動発表会

助成活動の成果の社会的還元や助成先同士の交流などを目的に、平成 26 年度に実施された助成活動の成果発表を行う「活動発表会」を開催した。

###### <開催概要>

日 時：平成 27 年 8 月 2 日（日）

〔発表会〕 13 時 30 分～16 時 05 分（ステージ発表）

〔交流会〕 16 時 30 分～17 時 55 分（ポスター発表含む）

場 所：ホテルグランヴィア大阪

発表者：41 団体（ステージ発表 10 団体、ポスター発表 31 団体）

参加者：約 90 名（発表団体、聴講者、役員、スタッフ）

## II 財団運営に関わる事項

### 1. 機関運営（評議員会、理事会、事業審査評価委員会の開催）

#### (1) 評議員会

開催回数：1回

決議事項等：平成26年度計算書類等の承認、評議員及び理事の選任 等

#### (2) 理事会

開催回数：4回

決議事項等：業務執行状況報告等のほか、以下の事項について決議を行った。

平成26年度事業報告及び計算書類等の承認、評議員会の招集、平成28年度連続講座の基本方針の承認、「平成28年度公募助成（活動及び研究）」の採択決定の承認、「平成28年度AED訓練器等の提供」の採択決定の承認、平成28年度基本財産の運用基本方針の承認、平成28年度事業計画及び収支予算の承認、平成29年度公募助成（活動及び研究）の基本方針の承認 等

#### (3) 事業審査評価委員会

開催回数：3回

審議事項等：理事長からの諮問に基づき、以下の事項について審議を行い、理事長へ答申を行った。

平成26年度助成事業の実績・成果等の確認評価、平成28年度公募助成（活動及び研究）の内容及び方法に関する指導・助言、平成28年度公募助成（活動及び研究）の選考、平成28年度助成先の審査 等

### 2. その他

#### (1) 基本財産の運用

基本財産20億円は、西日本旅客鉄道株式会社の無担保社債（20年物）により10億円、国債（20年物）により10億円を継続して運用した。

#### (2) 広報活動及び情報公開

当財団のホームページにおいて、財務資料等の基本情報の開示や財団事業の実施概要、実施結果等の公表を行った。また、事業実施時におけるプレス発表のほか、財団専用移動式ポスター掲示板の増設（新大阪駅、京橋駅、鶴橋駅、天王寺駅）を行うとともに、JR主要駅へのポスター・パンフレットの掲出、財団紹介用パンフレットの製作・配布、広報誌「R e l i e f」の発行（平成27年4月、7月、10月、平成28年1月）に加え、平成28年度公募助成の募集にあわせた広報（行政窓口及び中間支援団体等訪問）を行うなど、財団事業の認知度向上のための広報活動に努めた。